



平成26年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年4月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 カワニシホールディングス

コード番号 2689 URL <http://www.kawanishi-md.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 高井 平

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長

(氏名) 村田 宣治

TEL 086-245-1112

四半期報告書提出予定日 平成26年5月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年6月期第3四半期の連結業績(平成25年7月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年6月期第3四半期	77,035	5.1	1,525	△0.3	1,586	4.5	866	△6.4
25年6月期第3四半期	73,316	32.9	1,530	99.7	1,518	103.7	925	176.5

(注) 包括利益 26年6月期第3四半期 869百万円 (△10.3%) 25年6月期第3四半期 969百万円 (226.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年6月期第3四半期	154.45	—
25年6月期第3四半期	164.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年6月期第3四半期	37,206	4,003	10.8	713.48
25年6月期	31,663	3,245	10.3	578.43

(参考) 自己資本 26年6月期第3四半期 4,003百万円 25年6月期 3,245百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年6月期	—	0.00	—	20.00	20.00
26年6月期	—	0.00	—	—	—
26年6月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年6月期の連結業績予想(平成25年7月1日～平成26年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	96,842	0.6	1,450	△6.8	1,491	△2.8	787	△16.6	140.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年6月期3Q	6,250,000 株	25年6月期	6,250,000 株
② 期末自己株式数	26年6月期3Q	639,205 株	25年6月期	639,155 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年6月期3Q	5,610,824 株	25年6月期3Q	5,610,845 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績等は、業況の変化等により、上記数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項については、3ページ1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の連結売上高は770億35百万円（前年同期比 5.1%増）、連結経常利益は15億86百万円（前年同期比 4.5%増）、連結四半期純利益は8億66百万円（前年同期比 6.4%減）となりました。

なお、連結売上高及び連結経常利益の増収・増益に対し、連結四半期純利益が減益となったのは、前年同期に東京電力株式会社からサンセイ医機株式会社への受取補償金1億36百万円を特別利益として計上した影響によるものです。

セグメントごとの業績は、次の通りです。

〈医療器材事業〉

手術関連消耗品は、西日本を中心に仕入先との拡販活動が進み、順調にシェアアップしています。また、東日本は人工乳房の販売実績が着実に積み上がっています。その結果、手術関連消耗品全体の売上高は、前年同期比104.6%となりました。

整形外科消耗品は、低侵襲手術や先端技術など高い専門性を掲げる基幹病院で人工関節の手術件数が増加の傾向にあります。特に大阪・岡山・徳島・香川・愛媛で二桁成長し、整形外科消耗品全体の売上高は前年同期比107.4%となりました。

循環器消耗品は、不整脈領域で高い専門知識を要するカテーテルアブレーション（心臓の脈が速くなる頻脈の原因となる心筋組織を高周波で焼灼）が引き続き二桁成長を続けています。西日本の一部の基幹病院で手術件数の減少がありましたが、福島等の東日本での堅調な成長もあり、循環器消耗品全体の売上高は前年同期比101.3%となりました。

設備・備品の売上高は、一部の地域で消費増税前の駆け込み需要があったことに加え、モダリティ（CTやMRI、超音波検査装置等に代表される画像診断機器の通称）の拡販活動が進み、前年同期比104.1%となりました。一方、顧客からの交渉圧力が強まり、前年よりも売上総利益率が低下しました。

その結果、医療器材事業は、売上高676億16百万円（前年同期比 4.5%増）、営業利益14億80百万円（前年同期比 6.2%減）となりました。

〈ライフサイエンス事業〉

基礎研究領域は、当社顧客への科学研究費、私学助成金給付がともに絞り込まれたことに加え、新規顧客開拓が進まなかったため、売上高は前年同期比61.6%となりました。

一方、診断薬領域は、基幹施設での試薬の販売好調に加え、年度末の大型設備の更新が追い風となり、売上高は前年同期比126.8%となりました。

加えて、生産性改善プロジェクトで進めてきた業務の効率化も進んだ結果、ライフサイエンス事業は、売上高31億68百万円（前年同期比 4.6%減）、営業利益19百万円（前年同期 営業損失30百万円）となりました。

〈SPD事業〉

SPD事業は、大規模病院の手術件数の増加による売上高の伸長に加え、前年の新規契約と契約変更による管理料収入の増加が業績に寄与しました。また、生産性改善をテーマに物流・倉庫管理の合理化と作業の効率化を進めたプロジェクトが利益を押し上げています。

その結果、SPD事業は、売上高81億79百万円（前年同期比 15.8%増）、営業利益87百万円（前年同期比 71.4%増）となりました。

〈介護用品事業〉

介護用品事業は、主力の在宅ベッドレンタルと福祉用品の販売が順調に伸びています。今期注力している既存店舗のシェアアップが奏功し、売上高は前年同期比120.7%となりました。姫路市（兵庫県西部の中核市）での活動強化のため既存店舗を統合し姫路支店を開設いたしました。

その結果、介護用品事業は、売上高9億11百万円（前年同期比 23.7%増）、営業利益39百万円（前年同期比 41.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間の総資産は372億6百万円となり、前連結会計年度と比べ55億42百万円の増加となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金が62億71百万円、商品が4億71百万円、有形固定資産が2億95百万円増加した一方で、現金及び預金が15億19百万円減少したことによるものです。

また、負債は332億2百万円となり、前連結会計年度と比べ、47億85百万円増加しました。主な要因は、支払手形及び買掛金が46億77百万円、短期借入金が4億56百万円増加した一方で、未払法人税等が1億58百万円減少したことによるものです。

純資産は40億3百万円となり、前連結会計年度と比べ、7億57百万円増加しました。主な要因は、四半期純利益により8億66百万円増加した一方で、配当金により1億12百万円減少したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、0.5ポイント増加し、10.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、平成25年8月8日に公表いたしました平成26年6月期の連結業績予想を修正しております。その内容につきましては、平成26年4月30日に公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき、作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,915,640	5,396,421
受取手形及び売掛金	16,179,569	22,450,832
商品	3,258,284	3,730,010
その他	678,997	882,487
流動資産合計	27,032,491	32,459,751
固定資産		
有形固定資産	2,899,375	3,194,574
無形固定資産		
のれん	360,128	273,910
その他	200,716	264,140
無形固定資産合計	560,844	538,050
投資その他の資産	1,170,317	1,013,651
固定資産合計	4,630,537	4,746,276
資産合計	31,663,029	37,206,028
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,785,521	25,462,928
短期借入金	3,795,043	4,251,052
未払法人税等	628,308	469,555
賞与引当金	15,394	32,022
その他	1,268,885	1,066,216
流動負債合計	26,493,153	31,281,773
固定負債		
社債	30,000	20,000
長期借入金	794,248	892,516
退職給付引当金	329,166	339,161
役員退職慰労引当金	683,899	577,254
その他	87,069	92,139
固定負債合計	1,924,383	1,921,072
負債合計	28,417,536	33,202,845
純資産の部		
株主資本		
資本金	607,750	607,750
資本剰余金	343,750	343,750
利益剰余金	3,045,594	3,799,941
自己株式	△834,122	△834,178
株主資本合計	3,162,972	3,917,262
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	82,520	85,919
その他の包括利益累計額合計	82,520	85,919
純資産合計	3,245,493	4,003,182
負債純資産合計	31,663,029	37,206,028

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)
売上高	73,316,049	77,035,468
売上原価	65,560,760	69,047,428
売上総利益	7,755,289	7,988,040
販売費及び一般管理費	6,224,974	6,462,326
営業利益	1,530,314	1,525,713
営業外収益		
受取利息	1,215	1,087
受取配当金	1,130	2,115
受取保険金	8,935	76,528
持分法による投資利益	474	444
その他	28,676	27,364
営業外収益合計	40,431	107,541
営業外費用		
支払利息	46,694	34,663
その他	5,160	12,046
営業外費用合計	51,854	46,710
経常利益	1,518,891	1,586,544
特別利益		
投資有価証券売却益	—	55
有形固定資産売却益	850	9,167
受取補償金	136,794	—
受取和解金	—	13,500
補助金収入	—	11,266
特別利益合計	137,645	33,988
特別損失		
有形固定資産売却損	—	1,870
有形固定資産除却損	2,820	9,145
減損損失	33,629	73,659
役員退職慰労金	5,000	—
特別損失合計	41,450	84,676
税金等調整前四半期純利益	1,615,087	1,535,857
法人税、住民税及び事業税	687,182	562,276
法人税等調整額	2,202	107,016
法人税等合計	689,384	669,293
少数株主損益調整前四半期純利益	925,702	866,563
四半期純利益	925,702	866,563

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	925,702	866,563
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	43,984	3,398
その他の包括利益合計	43,984	3,398
四半期包括利益	969,687	869,962
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	969,687	869,962
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	医療器材 事業	ライフサイ エンス事業	S P D事業	介護用品 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	62,324,729	3,287,505	6,968,440	735,374	73,316,049	—	73,316,049
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,381,242	33,408	93,038	1,243	2,508,932	△2,508,932	—
計	64,705,972	3,320,913	7,061,478	736,617	75,824,982	△2,508,932	73,316,049
セグメント利益 又は損失(△)	1,578,652	△30,989	51,285	27,863	1,626,811	△96,496	1,530,314

(注)1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△96,496千円には、セグメント間取引消去550千円、各報告セグメントに配分しない全社費用△97,047千円が含まれています。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門費です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「医療器材事業」セグメントにおいて、サンセイ医機株式会社での新社屋建設に伴い旧社屋に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において33,629千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	医療器材 事業	ライフサイ エンス事業	S P D事業	介護用品 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	64,897,493	3,136,603	8,090,743	910,627	77,035,468	—	77,035,468
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,718,566	31,911	88,743	849	2,840,071	△2,840,071	—
計	67,616,059	3,168,515	8,179,487	911,477	79,875,540	△2,840,071	77,035,468
セグメント利益	1,480,948	19,293	87,910	39,482	1,627,634	△101,920	1,525,713

(注)1 セグメント利益の調整額△101,920千円には、セグメント間取引消去1,266千円、各報告セグメントに配分しない全社費用△103,187千円が含まれています。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門費です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「医療器材事業」セグメントにおいて、日光医科器械株式会社での新社屋建設の決定に伴い旧社屋に係る減損損失を計上しています。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において54,089千円です。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。